

本物の星空を見てね！

★ 星空案内と宇宙の話題

ペーパー版

姫路科学館は7月頃まで建物の大規模改修工事のため休館中なので、プラネタリウムに代わって、星空案内と宇宙の話題をお届けします。

にじゅうしせつき
二十四節気

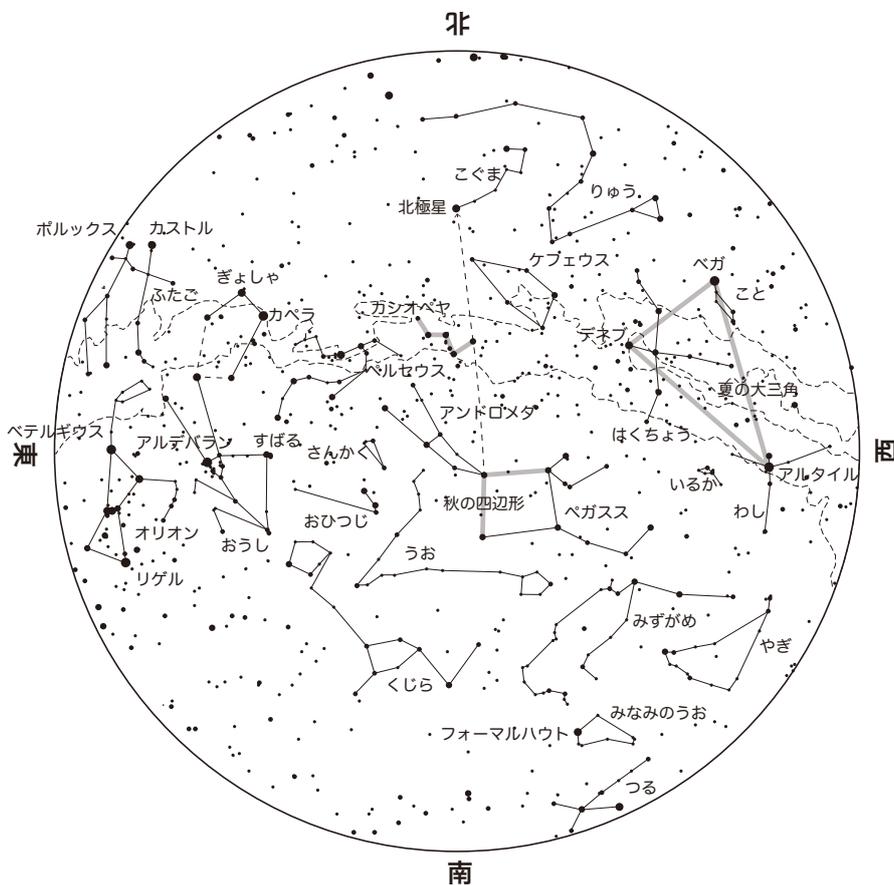
11/23 小雪
12/7 大雪

姫路の日没

11/15 16:55
12/1 16:49

月の見え方

- 上弦 11/19 (夜中に沈む)
- 満月 11/26 (一晩中)
- 下弦 12/3 (夜中に上る)
- 新月 12/11 (見えない)



11/15午後9時頃、12/1午後8時頃の星空 (月はかいていません)

星空案内 (肉眼編)

日の入り後、たそがれの西の空で目につくのが**夏の三角形**です。3つの星は、こと座のベガ(織女星)、わし座のアルタイル(彦星)、はくちょう座のデネブ(尾という意味)です。

空の高いところに見えるのは秋の星たちです。**秋の四辺形**の東側の線を伸ばすと、カシオペヤ座をかすめた先に北極星が見つかります。秋の四辺形からはこの他に、ペガス座、アンドロメダ座、ケフェウス座、くじら座、ペルセウス座といった、ギリシャ神話の登場人物たちが見つかります。また、南西から南にかけて、黄道12星座のやぎ座、みずがめ座、うお座が並びますが、暗めの星ばかりなので、まわりがなるべく暗いところで探しましょう。街明かりが少ない場所では、夏の三角形からペルセウス座にかけて、天の川が見えるでしょう。

東の空には冬の星も見え始めています。早い時間には、ぎょしゃ座のカペラやおうし座のアルデバランが目立ち、少し遅くなるとオリオン座も上ります。オリオン座は三ツ星とこれを囲む4つの星が、結んだリボンの形に見えます。ギリシャで一番の狩人オリオンの肩に輝くオレンジ色の1等星がベテルギウス、足に輝く白い1等星がリゲルです。オリオン座と同じ頃、北東の空に上るのがふたご座です。カストル(銀色)とポルックス(金色)が二人の頭に輝きます。

星空案内（双眼鏡・望遠鏡編）

双眼鏡や望遠鏡を使うと、肉眼で見るのとは違った宇宙の姿を見られます。中でも一番見ごたえがあるのは月です

月は毎日、見える場所や形が変わりますが、望遠鏡での観察は上弦からレモン型の頃がオススメです。この頃の月は欠けぎわにクレーターがたくさん見えます。直径100kmを超えるものもたくさんあります。また、おわんのように丸い底のもの、皿のように平らな底のもの、中央に出っ張りのあるものなど、形も様々です。

クレーターは隕石がぶつかってできた丸い穴で、ぶつかった隕石の直径の10倍程度の穴ができます。クレーターの多くは、今から38億年くらい前にできたと考えられています。

月全体を観察する時は倍率50倍以下、クレーターをくわしく観察したい時には100倍くらいで観察するのがいいでしょう。なお、満月は明るすぎるので、望遠鏡での観察には向きません。



写真1 上弦の月

星に願いを

夜空を見上げていると、時々流れ星が見えます。流れ星は宇宙のちり粒が地球の大気に飛び込んだ時に見られる発光現象です。いつ、どこに流れるかは予想できないため、本当は流れ星が見えるだけでもラッキー！なのですが、流れ星に願い事をするよくばりな人もいます。この「お願い」は、流れ星が見えている間に3回唱えろという説と、3つのお願いをするという説があります。3回では「カネ・カネ・カネ」や「カレ・カレ・カレ」をよく聞きますが、昔の女性は「髪ながかみくろを練習して唱えていたそうです。3つのお願いを唱えるのが少し難しかったので、いつのまにか3回ということになったのかもしれない。

見えるだけでもラッキーな流れ星ですが、毎年決まった時期に活動する流星群もあります。彗星から放出されたちり粒が元の彗星の軌道付近をめぐっているところを地球が毎年決まった時期に横切るため、空の1点から四方八方に向かって流星が流れるように見えるのです。ただし、流星群といっても一度に何個もの流星が見えるのではありません。また、流星群の元となるちり粒の分布にもムラがあり、多い年と少ない年のある流星群もあります。ニュースや天気予報などで「今夜は流星群が見られます」と放送されても、肩すかしに会うことが多いのはこのためです。そうした中で、月明かりのじゃまがなければ、毎年まとまった数が観測されるのが、12月15日に極大を迎えるふたご座流星群です。空高く上ったふたご座から長く明るい流星が流れる姿は見ごたえがあります。

寒い時期ですが、流れ星は夜空を見ていないと絶対に見られませんから、まわりが暗く、視界が開けた場所で、暖かくして観察してください。



写真2 蒜山高原で見た流れ星